

シンポジウム 1

SCOR-日本海洋学会合同シンポジウム「日本の海洋科学：現在と将来」

開催日時：2019年9月25日（水）13：30～17：00

会場：富山国際会議場 多目的会議室 201+202（第2会場）

共催：日本学術会議 地球惑星科学委員会 SCOR 分科会、日本海洋学会

コンビーナー：（代表）山形俊男（海洋研究開発機構）

（共同）張勁（富山大学）・安藤健太郎（海洋研究開発機構）・川合義美

（海洋研究開発機構）・安田珠幾（気象庁）・升本順夫（東京大学）

趣旨

海洋研究科学委員会（SCOR）は国際学術会議（ISC）の下で海洋科学に関する様々な研究活動をサポートする国際機関であり、今年の年会（9月23日～25日）が富山で海洋学会（9月25日～29日）の直前に開かれる。この機会を利用し、SCOR 国内委員会と海洋学会との共催で半日のシンポジウムを開催し、加盟各国の SCOR 委員等に日本の海洋科学の現状と成果を、また海洋学会員に SCOR の活動や日本との関係を紹介し、SCOR と海洋学会との連携を強化する。

プログラム（英語での講演となります）

13:30-13:40 開会あいさつ

張 勁（SCOR 副議長／富山大学）

神田 穰太（日本海洋学会会長／東京海洋大学）

13:40-14:00 “SCOR と日本”

山形 俊男（日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR 分科会委員長／海洋研究開発機構）

14:00-14:20 “日本の海洋研究機関の概要”

神田 穰太（日本海洋学会会長／東京海洋大学）

14:20-14:30 Q&A

<SCOR プログラムと日本の研究活動>

14:30-14:50 “2009-2018 年にかけての GEOTRACES-Japan の活動”

小畑 元（東京大学）

14:50-15:10 “南・東アジアの縁辺海における持続可能なイニシアチブに向けた研究開発”

森岡 優志（海洋研究開発機構）

15:10-15:20 休憩

15:20-15:40 “IIOE-2: インド洋の分野横断的研究への挑戦”
升本 順夫 (東京大学)

<SCOR ワーキンググループと日本の研究活動>

15:40-16:00 “SCOR/IAPSO/IAPWS 海水特性合同委員会 (JCS) での日本の取組み”
内田 裕 (海洋研究開発機構)

16:00-16:20 “世界の栄養塩濃度の比較可能性：過去、現在そして未来”
青山 道夫 (筑波大学)

16:20-16:40 “グローバル生物／生態系観測網の構築と調和に向けて SCOR WG が果たしてきた役割”
千葉 早苗 (海洋研究開発機構)

16:40-16:55 “SCOR からの展望と期待”
Marie-Alexandrine Sicre (SCOR 議長)

16:55-17:00 閉会あいさつ
蒲生俊敬 (東京大学)

シンポジウム 2

沿岸海洋シンポジウム「変わりゆく海：沿岸海域への温暖化の影響」

開催日時：2019年9月29日（日）9：00～16：45

会場：富山国際会議場 多目的会議室 204（第4会場）

主催：日本海洋学会沿岸海洋研究会

コンビーナー：張 勁（富山大）・小松 輝久（横浜商科大）・吉江 直樹（愛媛大）

趣旨

地球温暖化を伴う気候変動による影響は世界的に顕在化しており、陸上の人間活動の活性化と相乗的に沿岸海域に大きな影響を与えている。日本海では世界平均の3倍のペースで表層水温が上昇しており、日本列島の気候と水循環、海流の変動や、魚介類の不漁による水産業の衰退などの影響が顕在化してきている。また、日本海の“上流域”として捉えられる東シナ海でも、アジアモンスーンの変化や日々活発化する大陸における人為活動に起因した広域にわたる海洋の富栄養化の拡大がみられ、さらに低次のプランクトンや海藻などの生態系の変化も対馬暖流を介して日本の沿岸域に影響を及ぼしている。

本シンポジウムでは、沿岸海域における温暖化の影響を主軸に、気象、水文、海洋物理、海洋生物、海洋化学、水産学などの分野から、最前線の研究者に話題提供して頂き、今後の学際的研究の発展について議論したい。二部構成として、午前の部では広域かつ学術専門の観点から学際的議論の場を設け、午後の部では日本海洋学会の富山初開催を機に、沿岸海洋研究会初の試みとして、市民向けアウトリーチ企画とする。わずか50kmの水平距離で、高さ3000m級の立山連峰から水深1000mを越える富山湾との高低差4000mを有する開催地「富山」をクローズアップして、陸から海に亘るこれまでの環境変化の情報を共有しながら、国連が提唱している持続可能な開発目標（SDGs）も視野に入れ、今後の実施可能な対応策、市民レベルでの環境保全への意識向上が狙いである。

プログラム

会長挨拶（9：00～9：05） 松野 健（九大応力研）

趣旨説明（9：05～9：10） 張 勁（富山大理）

1. 東シナ海：物理的観点から

9：10～10：35 松野 健（九大応力研）

2. 東シナ海：生物的観点から

9：35～10：00 石坂 丞二（名大宇地研）

3. 東シナ海：生態系の観点から～低次生態系モデルによる 100 年後の栄養塩・プランクトン分布

10：00～10：25 瀬藤 聡（水研機構・中央水研）

4. 東アジアモンスーン・対馬暖流の変化

11：20～11：50 広瀬 直毅（九大応力研）

－休憩（10:50～11:00）－

5. 対馬海峡から日本海への栄養塩輸送

11：00～11：25 森本 昭彦（愛媛大 CMES）

6. 九州から日本海沿岸の藻場の変化

11：25～11：50 小松 輝久（横浜商科大）

7. 日本海全海域の水産・漁獲変化

11：50～12：15 井桁 庸介（水研機構・日水研）

8. 温故知新：過去 7000 年にみられる対馬暖流の流量変動と駆動因子

12：15～12：40 堀川 恵司（富山大理）

－休憩（12：40～13：30）－

クローズアップフォーラム：富山・富海・富幸（一般公開）

趣旨説明（14：00～14：05） 張 勁（富山大理）

1. 気象の観点から

14：05～14：30 安永 数明（富山大理）

2. 物質輸送の観点から：陸から海へ

14：30～14：55 張 勁（富山大理）

3. 富山湾に流れ込む対馬暖流水と河川水

14：55～15：20 中田 聡史（国立環境研）

4. 富山湾のアマモ

15：20～15：45 寺内 元基（NPEC）

5. 富山湾の動物プランクトン

15：45～16：10 井口 直樹（水研機構・日水研）

6. 富山湾の漁獲変化

16：10～16：35 小塚 晃（富山水試）

まとめと将来展望 16：35～16：45

シンポジウム 3

今後の黒潮と周辺海域の国際共同観測を考える

開催日時：2019年9月25日（水）9：30～16：45

会場：富山国際会議場 多目的会議室 203（第3会場）

主催：日本海洋学会

コンピーナー：永野 憲・安藤 健太郎・野中 正見・川合 義美（JAMSTEC）・
児玉 武稔（水産研究・教育機構）・楳田 貴郁（気象庁）

趣旨

フィリピン東方から日本近海にかけて流れる黒潮の研究は、1965年～1979年に行われた西太平洋の国際観測プロジェクト Cooperative Study of the Kuroshio and Adjacent Regions (CSK) によって大きく発展した。近年、黒潮が気候変動に重要な役割を果たしていることが分かりつつあり、海洋生態系の変化や海ごみ等の問題も社会経済的利益の意識の高まりとともに注目されている。そこで、黒潮とその周辺域の将来の国際的な観測システムの構築に向け、国内の既存の黒潮関連研究プロジェクトの観測・研究の現状を把握した上で、国内プロジェクトとその国際連携との関連を議論し、今後の研究課題や観測計画等の方向性を探る。

プログラム

09:30-9:35 開会

09:35-9:45 趣旨説明

永野 憲（JAMSTEC）

09:45-10:10 黒潮源流域からトカラ海峡までの乱流観測

郭 新宇（愛媛大CMES）

10:10-10:35 大気海洋相互作用と黒潮・黒潮続流域観測

川合 義美（JAMSTEC）

10:35-11:00 黒潮およびその周辺海域の生物生産把握のための観測網：水産研究・教育機構の調査・研究紹介

児玉 武稔（水産研究・教育機構）

11:00-11:25 津軽海峡東部でのHFレーダー観測の紹介と流況予測に資する基礎的な解析について

阿部 泰人（JAMSTEC，北大院水産），佐々木健一，
脇田昌英（JAMSTEC），安井智美（北大院水産）

昼食休暇 11:25-13:00

13:00-13:25 黒潮域の生物生産を支える要因と残された課題

齊藤 宏明 (東大AORI)

13:25-13:50 WESTPAC WG06の活動と今後の展望：西太平洋縁辺海の陸-大洋間エネルギー・物質交換に関する国際共同観測

張 勁 (富山大理工), 松野 健, 遠藤 貴洋 (九大応力研)

13:50-14:15 海底圧力計の有効利用に向けた今後の展望

有吉 慶介 (JAMSTEC)

14:15-14:40 海洋環境変動予測の視点から観測について考える

宮澤 泰正 (JAMSTEC)

休憩 14:40-15:00

15:00-15:25 高解像度海洋モデル・データ同化システムを用いた黒潮研究

碓氷 典久 (気象研究所)

15:25-15:50 定線観測で捉えた北西太平洋亜熱帯循環の変動

榎田 貴郁 (気象庁)

15:50-16:15 国際海洋観測プロジェクトにおけるデータセンターについて

馬場典夫 (日本海洋データセンター)

16:15-16:45 総合討論

閉会

シンポジウム 4

大型研究計画と海洋学会将来構想

開催日時：2019年9月29日（日）9：30～15：00

会場：富山国際会議場 多目的会議室 203（第3会場）

主催：日本海洋学会

コンビーナー：岡 英太郎（東大 AORI）・高橋 一生（東大院農）・西岡 純（北大低温研）

趣旨

2010年以來、日本学術会議の主導により、「大型研究計画のマスタープラン」が3年ごとに策定されている。海洋学会では4回目となる「マスタープラン 2020」に、他学会と共同で「深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高精度化」を提案中である。本シンポジウムでは、この提案内容とともに、次期「マスタープラン 2023」に向けた学会新執行部の活動方針を紹介する。また、現在進行中あるいは計画中の新学術領域研究等の大型プロジェクトに関しても情報交換を行い、連携強化の基礎とする。

プログラム

9:30-9:45	趣旨説明	神田穰太（東京海洋大）
9:45-10:15	マスタープラン 2020 への提案課題紹介	日比谷紀之（東大院理）

大型プロジェクトの紹介 (I)

10:25-10:50	新学術領域研究「海洋混合学の創設 物質循環・気候・生態系の維持と長周期変動の解明」	安田一郎（東大 AORI）
10:50-11:15	新学術領域研究「熱-水-物質の巨大リザーバ 全球環境変動を駆動する南大洋・南極氷床」	大島慶一郎（北大低温研）
11:15-11:40	新学術領域研究「変わりゆく気候系における中緯度大気海洋相互作用 hotspot」	野中正見（JAMSTEC）
11:40-12:05	次期新学術領域研究「放射性物質グローバルマイグレーション学 ―福島事故の知見を環境トレーシングへー」に向けて	津旨大輔（電中研）
12:05-13:00	昼食休憩	

大型プロジェクトの紹介 (II)

- 13:00-13:25 黒潮に関する学術分野横断研究 SKED の背景、成果、新たな課題
齊藤宏明 (東大 AORI)
- 13:25-13:50 北極域研究推進プロジェクト
菊地隆 (JAMSTEC)
- 14:00-15:00 マスタープラン 2023 を視野に入れた今後の海洋学会の将来構想の方針に
ついて
神田穰太 (東京海洋大)

ナイトセッション1

軍事研究の情報交換／海洋科学研究者の立場について

開催日時：2019年9月25日（水）17：00～19：00

会場：富山国際会議場 多目的会議室 203（第3会場）

共催：「軍事研究と海洋科学を考える談話会」よびかけ人、日本海洋学会

コンビーナー：代表・池田元美（北海道大学）

上記グループメンバー：池田元美・市川洋・植松光夫・久保田雅久・杉本隆成・花輪公雄

趣旨

研究費に関する、ここ数年の目立つ変化としては、科研費が最近数年ほぼ横ばいであるのに対し、防衛装備庁による公募研究費は急激に増加していることである。防衛装備庁による公募は安全保障技術研究と銘打っているが、軍事研究に関わるテーマが中心である。このような状況に対し、研究者個々としては、軍事研究予算に前向きに応募する、個人的には応募したくないが、所属組織からの強い要請を受けて応募する、やはり応募しないなど様々な対応の仕方があるだろう。

学術会議は、研究の公開性を保障すべきであると表明し、各学協会・研究組織等に規範やガイドラインの作成を求めている。京都大学をはじめとする複数の大学が、機関として防衛装備庁への応募を認めないとの方針を打ち出している。日本天文学会は、2019年3月15日に「天文学と安全保障との関わりについて」という声明を公表した。その「背景の説明」では、学会員の中に賛成・反対を含め幅広い意見分布が見られると述べており、海洋学会と同様の状況が根底にあると思われる。

海洋科学に携わる者としては、自らの研究成果と軍事との関係があるか、学協会や研究機関の状況はどうか、海洋学会にどのような取り組みをしてほしいか、もし研究責任者に軍事研究を要請されたらどうすればよいかなど、様々な論点が考えられる。本ナイトセッションでは、取り上げる論点を広く募集し、自由な情報交換と意見交換を行う。

プログラム

1. 経緯説明 17：00～17：15 池田元美（北大）
2. 天文学会の取り組みから学ぶ 17：15～17：45 市川洋
3. 情報・意見交換 17：45～18：45
 - 1) 研究機関などの動向（大学の方針提示など）
 - 2) 安全保障技術研究の実例

- 3) 自らの研究で軍事に関係する可能性
- 4) 重要な視点（良心的軍事研究拒否など）
- 5) 海洋学会への質問、要望、提言など

以上の例に留まらず、広く発表を募集します。上記のセッション趣旨に対する疑問や反論でも結構です。発表申込先：池田元美（mikeda@ees.hokudai.ac.jp）

4. 今後の方針に関する議論 18：45～19：00

ナイトセッション 2

「持続可能な開発のための国連海洋科学の 10 年 (2021-2030)」の準備状況と今後

開催日時：2019 年 9 月 28 日（土）18：00～19：30

会場：富山国際会議場 多目的会議室 203（第 3 会場）

主催：日本海洋学会

コンビーナー：（代表）安藤 健太郎（海洋研究開発機構、日本ユネスコ国内委員会/IOC 分科会、IOC/WESTPAC）

（共同）道田 豊（東京大学大気海洋研究所、日本ユネスコ国内委員会/IOC 分科会）、
河野 健（海洋研究開発機構、日本ユネスコ国内委員会）、齋藤 宏明（東京大学大気海洋研究所、日本ユネスコ国内委員会/IOC 分科会、PICES）

趣旨

2017 年 12 月の国連総会において宣言された「持続可能な開発のための国連海洋科学の 10 年(2021-2030)」(UN Decade of Ocean Science for sustainable development、以降 UN Decade) は、その実施に向けてユネスコ政府間海洋学委員会 (IOC/UNESCO) が実施計画策定機関として取り組みを始めており、その策定のための計画が、2018 年 6 月の執行理事国会合において、日本を含む参加国により承認された。その計画では、2 度の全球計画会合(Global Planning Meeting)を開催し、それら 2 回の会合の間に、北太平洋など幾つかの地域に対して、それぞれ地域計画の策定と全球計画へのフィードバックのための地域コンサルテーション会合を開催する計画となっている。これら一連の会合開催に対して、各加盟国が貢献を検討する旨の要請を受けて、日本政府は北太平洋を対象とした地域コンサルテーション&プランニングワークショップの開催への支援を表明した。その後、政府間海洋学委員会西太平洋地域小委員会 (IOC/WESTPAC)、北太平洋海洋科学機関 (PICES) の協力を得て、文部科学省日本ユネスコ国内委員会 IOC 分科会は、今年 7 月に東京において、北太平洋地域コンサルテーション&プランニングワークショップを開催した。

当該ナイトセッションでは、本年 7 月に開催した北太平洋の地域コンサルテーション&プランニングワークショップでの議論の結果と、学会開催時点での IOC による計画策定の途中経過について、IOC 分科会または日本ユネスコ国内委員会において、UN Decade を担当する委員の立場で報告し、その後の計画策定の具体化に向け、学会の会員を中心に意見交換を行うことを目的とする。

ナイトセッションプログラム：

18:00-18:05 趣旨説明

- 安藤健太郎 (IOC 分科会委員、IOC/WESTPAC、JAMSTEC)
- 18:05-18:20 UN Decade の準備状況と日本での取り組み
植松光夫 (Executive Planning Group メンバー、東京大学名誉教授)
- 18:20-18:35 北太平洋地域ワークショップの全体報告
安藤健太郎 (IOC/WESTPAC, JAMSTEC)
- 18:35-18:50 ワークショップ内のワーキンググループにおける議論
- WG5:Sustainable Productive Ocean を中心として -
齋藤宏明 (ワーキンググループ共同コンビーナー、東京大学大気海洋研究所)
- 18:50-19:05 ワークショップ以降の国連海洋科学の 10 年の実施に向けた方向性
道田豊 (IOC 分科会主査、ワークショップ共同議長、東京大学大気海洋研究所)
- 19:05-19:30 意見交換
モデレーター：河野健 (日本ユネスコ国内委員会委員、JAMSTEC)

ナイトセッション3

海洋・水産分野への利用に向けたデータ同化と衛星観測

開催日時：2019年9月28日（土）18：00～20：40

会場：富山国際会議場 多目的会議室 201+202（第2会場）

主催：日本海洋学会

コンビーナー：大石俊（名大）、村上浩（JAXA）、宮澤泰正（JAMSTEC）、瀬藤聡（水研）

趣旨

現在、海面水温や流速などの様々な海洋の情報が水産分野で活用されている。赤外線やマイクロ波を用いた衛星観測ではそれぞれ雲域や強雨域での海面水温が捉えられない。そのため、このような欠測域がないデータセットの作成を望む声があった。一方で、海洋モデルは欠測値なく3次元の出力値を作成できるが、現実場を再現するとは限らない。そこで、観測とモデルを融合する海洋データ同化システムが2000年代後半から構築され、高い再現性を持つ3次元海洋再解析データセットが提供されるようになった。

これらのデータセットは研究分野だけでなく、水産分野にも大いに利用されるようになってきた。現在、国内には複数の海洋データ同化システムがあるが、システム作成者が利用者のニーズを把握しきれていない状況にある。そこで、本セッションは海洋データ同化システムの専門家と利用者との間で情報や意見の交換を行うことで、水産分野でのデータ利用を促進するとともに、今後のデータ同化システムの展望を見据える場としたい。

プログラム

- 18:00 – 18:05 趣旨説明 大石俊（名大）
- 18:05 – 18:20 「しきさい」「しずく」「ひまわり」による海洋観測データ 村上浩（JAXA）
- 18:20 – 18:40 水産利用に資する高解像度海洋再解析データの作成 碓氷典久（気象研究所）
- 18:40 – 19:00 九州北部海域における漁船データ同化の取り組み 広瀬直毅（九大）
- 19:00 – 19:20 水産海洋関係研究・業務におけるモデル等の利活用 瀬藤聡（水研）
- 19:20 – 19:40 JAMSTEC-APLにおける海流予測モデルプロダクトと、その活用に向けた連携について 宮澤泰正（JAMSTEC）
- 19:40 – 20:00 日本海の水温再解析値データを用いた富山県の漁獲量変動解明の試み
小塚晃（富山水研）
- 20:00 – 20:20 長崎県における赤潮発生と対策について 平江想（長崎水試）
- 20:20 – 20:40 総合討論

ナイトセッション 4

学生・若手研究者のための研究資金の獲得について

開催日時：2019年9月25日（水）17：15～19：00

会場：富山国際会議場 多目的会議室 201+202（第2会場）

共催：日本海洋学会広報委員会、日本海洋学会ブレイクスルー研究会

コンビーナー：安中さやか（JAMSTEC）・脇田昌英（JAMSTEC）

趣旨

研究を発展させるための研究資金を獲得の方策に対する悩みは、世代を超えた共通の悩みと思います。特に、修士・博士課程の学生や学位取得直後の若手研究者は、情報源も限られており、多くの不安を抱えているのではないのでしょうか。

そこで、日本海洋学会広報委員会とブレイクスルー研究会では、多様な研究助成の一例として、民間の研究財団のキャノン財団の研究助成プログラムを紹介するナイトセッションを開催します。キャノン財団研究助成部の逢坂さんに、キャノン財団の理念紹介と新応募プログラムの趣旨説明に加えて、財団運営サイドの思い、特に、若手研究者への期待とエンカレッジについてお話しいたします。さらに、若手だけの研究仲間で、分野手法を横断するテーマを設定して、キャノン財団から研究資金を獲得した田村さんに、自分達だけでプロジェクトを運営した経験を、その後の展開も含め、紹介して頂きます。

皆様の多数のご参加をお待ちしています。

プログラム

17:15 ～ 17:30 趣旨説明と若手が応募できる研究資金

17:30 ～ 18:10 逢坂 徹 氏（キャノン財団）発表 25分+質疑 15分

18:10 ～ 18:50 田村 岳史 氏（極地研究所）発表 25分+質疑 15分

18:50 ～ 19:00 総合討論

イベント 1

海洋教育特別ポスターイベント： 海洋教育・アウトリーチ活動の実践と課題

開催日時：2019年9月28日（土）13：00～14：30

会場：富山国際会議場 ポスター会場(3F ホワイエ)

主催：日本海洋学会教育問題研究会

コンパニナー：丹羽淑博(東京大, 教育問題研究会)・市川洋(教育問題研究会)・

轡田邦夫(東海大, 教育問題研究会)・須賀利雄(東北大, 教育問題研究会)

趣旨

日本海洋学会教育問題研究会では、日本海洋学会のアウトリーチ活動の増進および初等中等教育における海洋教育の普及に関わる活動を続けている。2016年度からは会員と小・中・高校の教員および水族館・博物館など社会教育施設で海洋教育に携わる非会員とが「海洋教育実践」に関わる情報を交換する特別ポスターイベントを開催してきた。また、2016年4月には海洋関連30学会・委員会と合同して小学校理科第4学年に単元「海のやくわり」新設を求める提案書を文科省初等中等教育局へ提出した。また、広報委員会でも2016年度から、最先端の海洋科学の魅力を児童生徒に伝えるために小・中・高校に会員を派遣する講師派遣事業をスタートさせている。

上記の活動の背景には、近年、一般社会や産業界から海洋立国の将来を担う人材の育成を目指す海洋教育の充実を求める動きの高まりがある。また国際的にも、ユネスコ IOC 主導の下、2021年から2030年までを「持続可能な開発のための海洋科学の10年」とする決議が2017年に国連総会でなされ、科学コミュニティ、政策立案者、企業や一般社会に力の結集が呼びかけられている。この流れの中で、一般市民や将来を担う子供たちに、海洋の役割や重要性を伝えるカリキュラムや教材の開発が強く求められており、そこでは学会会員を始めとする海洋学の専門家の役割がますます重要となっている。

そこで、2018年度秋季大会に引き続いて、2019年度秋季大会においても、海洋教育に携わる学校教員、中・高校生、水族館や博物館などの社会教育施設、NPO 団体など教育現場で海洋教育に携わる非会員と「海洋教育実践」に関わる情報を交換する場として、学会会員以外でも発表・参加可能とするポスター発表イベントを開設する。このイベントを通じて、小中高等学校・社会教育施設などの教育現場において日本海洋学会に求められているニーズや日本海洋学会が貢献できるシーズを明らかにしていく。

プログラム（調整中）

- ・北陸地区周辺の小学・中学・高等学校における海洋教育にかかわる活動の紹介
- ・北陸地区周辺の博物館・水族館における海洋教育にかかわる活動の紹介
 - 魚津埋没林博物館
 - 魚津水族館 他
- ・大学・研究機関における海洋教育にかかわる活動の紹介
 - 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 他
- ・NPO 団体における海洋教育にかかわる活動の紹介
 - NPO 法人 海の自然史研究所 他

イベント 2

全球海洋観測システム (GOOS) に関連する情報を共有するための集会

開催日時：2019年9月27日(金) 12:00~13:00

会場：富山国際会議場 多目的会議室 204 (第4会場)

共催：IOC 協力推進委員会 海洋観測・気候変動専門部会、日本海洋学会

コンビーナー：須賀 利雄 (東北大院理)・岡 英太郎 (東大大気海洋研)・

石井 雅男 (気象研)・千葉 早苗 (JAMSTEC)

趣旨

GOOS (Global Ocean Observing System)は、ユネスコ政府間海洋学委員会 (IOC) が主導するプログラムであり、海洋に関わる多くの国際機関、国際研究プログラムの賛同を得て、統合的な全球海洋観測システムの構築を目指しています。GOOS 関連の活動は、多くの会員の研究活動とも密接に関係していますが、様々な国際的な枠組みが複雑に関わっているなどの理由により、重要な情報がスムーズに伝わりにくいという状況があります。この状況を少しでも改善し、GOOS およびこれに関連した情報を会員のみなさまと共有するための機会として、昨年度の秋季大会に引き続き、本集会を開催します。

今回は、今年5月に公表された GOOS 2030 戦略、および、GOOS に設置されている物理、生物地球化学、生物・生態系の3つのパネルの活動、OceanObs'19 の速報等を紹介し、質疑応答と意見交換を行います。GOOS の成果をみなさんの研究活動に活かすために、また、日本から GOOS に積極的・効果的に貢献するために、さらに、みなさんからの意見を GOOS 関連の国際委員会・会議等に反映させるためにも、GOOS に関わる情報をタイムリーに、わかりやすく伝え、会員のみなさんからの意見を広く聴く機会としたいと考えています。GOOS って何? という方から、最近の GOOS の動きを具体的に知りたい、あるいは、GOOS に意見を言いたいという方まで、多数の参加をお待ちしています。

プログラム

12:00-12:40 GOOS 2030 戦略とパネルの活動等の紹介

12:40-13:00 意見交換

本イベントはお昼休み中の開催であることから、お弁当等を事前にご準備の上ご参加ください。

イベント 3

第 8 回 COSIA (海洋科学コミュニケーション実践講座) 体験ワークショップ ー学習者の多様性に配慮した学習環境をつくるー

開催日時：2019年9月28日(土)：16：30～18：00

会場：富山国際会議場 特別会議室 (第5会場)

共催：日本海洋学会教育問題研究会、特定非営利活動法人海の自然史研究所、
日本海洋学会講師派遣事業

コンビーナー：轡田邦夫 (教育問題研究会)・今宮則子 (特定非営利活動法人海の自然史研究所)

定員：20名 (事前登録制。定員に満たない場合には当日受付あり。)

詳細と事前登録は、以下の教育問題研究会のウェブサイトを参照。

<https://jos-edu.net/COSIA/event201909.html>

趣旨

海洋科学コミュニケーション実践講座 (Communicating of Ocean Sciences to Informal Audiences, COSIA) とは、教育に関わる活動を開発・実践する人々が、学習者が能動的に学ぶ海洋学習の場をつくるスキルを身につけるために、米国カリフォルニア大学バークレー校の the Lawrence Hall of Science (LHS)において開発された講座 (全10回) である。今回の体験ワークショップでは、その一部として、「海の出前授業」などで、海の知識を様々な人に「伝える」際に配慮する必要がある事項を学び、考える場を提供する。

海洋科学の指導や教育に携わる人々にとって、多様な人々に質の高い海洋科学教育を提供する海洋科学コミュニケーション活動の計画立案やプログラム開発をおこなう際には、学習者の多様性や公平性に配慮し、学習者が好奇心を持って能動的に学べる環境をつくることが不可欠である。そこで、今回の体験ワークショップでは、参加者がこれまでにこなしてきた海洋科学コミュニケーション実践を題材にして、多様な学習者に配慮した学習環境を作る要素 (教材や問いかけ方)、学習の流れ (学習の構成と展開) に着目して、実践の振り返りを試みたい。学習者同士の、また教材とのかかわりを高めることによって、学習者の参加度、満足度を高められるコミュニケーション実践の作り方について考える。

プログラム

- | | |
|-------------|--|
| 16:30-16:35 | 趣旨説明 轡田邦夫 (日本海洋学会教育問題研究会) |
| 16:50-17:55 | 学習者の多様性に配慮した学習環境をつくる
講師：都築章子 (海の自然史研究所)、今宮則子 (海の自然史研究所) |
| 17:55-18:00 | 閉会挨拶 上野洋路 (日本海洋学会講師派遣事業) |

イベント 4

海洋研究者の座談会 ― 男女共同参画の現状と課題 ―

開催日時：2019年9月26日（木）12：00～13：00

会場：富山国際会議場 多目的会議室 204（第4会場）

共催：男女共同参画を考える会、日本海洋学会、海洋若手研究者の会、日本海洋学会広報委員会

コンパネーター：西川 悠（JAMSTEC）・杉江 恒二（JAMSTEC）・上野 洋路（北大水産）・西川 はつみ（北大低温研）

趣旨

海洋分野で大学院に進学する学生は一定数いるものの、博士課程へ進学し研究者への道を志す学生、特に女子学生の博士課程進学者は極めて少ない。学会全体を見ても女性研究者の数は少なく、ライフイベントと研究活動を両立など、女性研究者が抱える問題が依然として解決されていないことが一因であると考えられる。本シンポジウムは、これまで女性研究者のキャリアパスや無意識のバイアスをテーマに開催してきた。そこで繰り返し指摘されているのは、女性だけでなく男性、そして両立を可能にする制度や社会システムを構築する側も、この問題に当事者意識を持って向かい合わなければならないということである。最近では両立支援・ワークライフバランスの充実のための制度が整えられつつあり、そうした制度を利用する男性も増えている。とはいえ、制度を作る側、利用する側もまだある種の戸惑いを感じ、試行錯誤していることだろう。例えば、制度を作ったもののあまり利用されていない、制度を利用することに周囲の理解が得られるか不安である、といった声が聞こえてくる。今年度のシンポジウムでは、男女共同参画に関する制度の運営と特に男性の利用者に焦点を当てる。それぞれの当事者にご講演いただき、参加者に制度作りや制度利用への関心・理解を促すことを目的とする。また、質疑応答の時間を長めに取り、参加者が疑問点などについて活発に議論できるよう配慮したい。

プログラム

神田穰太（日本海洋学会会長）：「海洋学会における男女共同参画の実現に向けて」

大路貴久（富山大学工学部電気電子システム工学科教授／富山大学男女共同参画推進室副室長）：「富山大学における男女共同参画に向けた取り組み」

橋岡豪人（JAMSTEC）：「男性研究者の育児休暇」